

事業番号	172
------	-----

平成24年度事業評価シート（平成23年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	大知波峠廃寺跡整備事業				担当課	社会教育課	
事業期間	開始年度	～	終了予定年度		担当係	芸術文化係	
総合計画	めざすまちの姿	7 歴史・伝統・文化を生かし次世代に継承するまち					
	目標	① 歴史の保存と継承					
	成果指標	文化財の保護・保存に関心があると答える市民の割合	中間目標 (H27)	25%	最終目標 (H32)	30%	
予算区分	一般会計	10 款 教育費	6 項 社会教育費	6 目 文化振興費			
	細事業	291 文化財調査費					
位置づけ	関連計画						
	根拠法令	文化財保護法、静岡県文化財保護条例					
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市 ・ <input type="checkbox"/> 国 ・ <input type="checkbox"/> 県 ・ <input type="checkbox"/> その他						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他（						
対象（誰のため）	<input checked="" type="checkbox"/> 全市民 <input type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他						
事業の目的（何のため）	国史跡大知波峠廃寺の保存管理及び整備計画を進め、地域文化の継承、保存を図る。						
内容（概要）	国指定大知波峠廃寺の保存管理及び整備事業 ・大知波峠廃寺の管理（草刈）年2回 750千円×10年 ・大知波峠廃寺保存管理計画の策定（28年度）5,000千円 ・整備基本計画の策定（29年度）5,000千円 ・整備事業（30年度）50,000千円						
これまでの改善・見直しの状況	大知波峠廃寺跡の草刈を毎年実施し、現状の保存に努めている。 ・平成20年度：草刈3回（うち1回は職員） ・平成21年度：草刈1回 倒木処理1回 ・平成22年度：草刈3回（うち1回は職員） ・平成23年度：草刈2回（うち1回は職員） 倒木処理1回						

2. コスト

（単位：千円）

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度事業費
事業費	予算	750	750	844	(内訳)
	決算	750	440		物件費(手数料) 440
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	750	440	844	
職員人件費	591	1,053	1,979	人工	0.2 人

3. 事業の評価

事業の実施状況

活動指標	内容	単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率	
		草刈実施回数	回	目標	3	3	3
実績			3	2			
		目標					
		実績					
		目標					
実績							

実績・改善	平成23度活動内容	①草刈の実施 6月、8月、10月（倒木処理） ②現地説明会 「おちばの里とうげ祭り」（11月）で史跡の周知・啓発を実施				
	課題・問題点となった事項	保存整備計画及び基本整備計画の策定が遅れているため、国の補助対象となる整備事業の実施も遅れている。				
	どう対処したか	合併を機に、新居関所の整備と絡めて、5次総合計画で事業を検討していく。				
	改善点	年に1回職員で草刈を実施し、経費を節減するとともに、現状の把握に努めている。	効果額 H24-H23 (千円)	350		

自己評価	事業目的の達成状況	平成13年1月29日に国の史跡に指定され、保存整備に向けて周辺の分布調査を行うとともに、周知・啓発を図るため、リーフレットやビデオの作成を行った。				
	※必要性事業を廃止・休止したときの影響	本事業を廃止・休止した場合、文化財の保護・保存に支障をきたし、その価値を後世に継承していくことが困難となってしまう。				
	判定	A 継続	現行の内容で実施	事業主体	市	
	判定理由	市が継続して文化財の保護・保存を図るとともに、その価値を後世に継承していくことが必要である。				
今後の方向性	今後、市民に親しまれる史跡としての活用を図るため、保存整備計画等の策定を検討する。					